

序

鉄筋コンクリート構造の技術が、日本に建築物の主要構造物の一つとして本格的に導入されたのは1906（明治39）年3月、サンフランシスコに襲来した大地震以降といわれています。

造家学会（現日本建築学会）刊行の機関紙「建築雑誌」第1号（明治20年1月）によれば、1906年の20年程前より先達の方々は鉄筋コンクリートに興味を持ち、欧米の論文を読み真摯に議論と実験をされていました。

本書は、著者が長年にわたって実験室におけるコンクリート研究と数多くの鉄筋コンクリート造の建物や煙突の長期的な力学的特性と耐久性調査試験にかかわってきた結果と経験をベースとして、耐用年数を目標とした安全かつ快適な鉄筋コンクリート造建物を設計・施工する方法および既存鉄筋コンクリート造建物の診断・改修する方法を著しました。

執筆に当たって多くの著書、文献を参考にさせていただきました。執筆者、編著者の方々および発行された学協会に心より感謝いたします。

本書が、建築に携わる設計者、施工者、監理者、教育・研究者、材料メーカー、レディーミクストコンクリート製造業者、改修業者、材料試験業者、院生・学生などの方々にご利用いただければ幸いです。

2008年11月

依田 彰彦